

自己の課題に応じた言語能力を活用して学習に取り組む生徒の育成

～課題設定と振り返りの機能を持たせた学習計画表(ミラクルシート)を設定して～

特別研修員 国語 池田 瑞輝(中学校教諭)

研究の構想

生徒の実態

国語の授業の中で
練り上げられた
言語能力への実感が乏しい

手立て① **ミラクルシート**による課題の把握、変容の振り返り

手立て② **変容の分かる活動**で単元当初と終末を比較

身に付けた
言語能力を
次の学習へ

実践1 書くこと



説明文教材から学んだことを活かして**単元の初めと同じテーマの作文を書く。**



観点をもとに互いの作文をA~Cの三段階で相互評価する。

生徒が実感した変容

例示を入れたり、まとめごとに段落を変えたりすることで、分かりやすく書けるようになった。

今後の学習への意欲

次に書くときは、例示がまとめの根拠になるようにしたい。

身に付けた
言語能力を次の学習へ

実践2 話すこと 聞くこと



教室の中央で一班ずつ話し合い。周囲を評価する生徒で囲む。

評価シートをもとに、評価した根拠などを互いに口頭で評価内容を伝え合う。

生徒が実感した変容

質問をする力がついて、話し合いで実際にたくさん質問ができるようになった。



身に付けた
言語能力を次の学習へ

ミラクルシートによる毎時間の振り返り

今後の学習へ向け
取り組みたいことを書く

焦点化した言語能力の
変容を記述する

ミラクルシートの実際

特に身に付けたい力を
生徒自身で焦点化する

生徒が記入した「ミラクルシート」の一例。左側に課題設定と振り返りの欄があり、右側に自己評価と相互評価の欄がある。中央には「相互評価により変容を実感させる」という注釈がある。

評価の観点	自己評価
①	B
②	A
③	B
④	A
⑤	A
⑥	A
⑦	A
⑧	A
⑨	A
⑩	A
⑪	A
⑫	A
⑬	A
⑭	A
⑮	A
⑯	A
⑰	A
⑱	A
⑲	A
⑳	A
㉑	A
㉒	A
㉓	A
㉔	A
㉕	A
㉖	A
㉗	A
㉘	A
㉙	A
㉚	A
㉛	A
㉜	A
㉝	A
㉞	A
㉟	A
㊱	A
㊲	A
㊳	A
㊴	A
㊵	A
㊶	A
㊷	A
㊸	A
㊹	A
㊺	A
㊻	A
㊼	A
㊽	A
㊾	A
㊿	A

◆話すこと
①相手の反応を最後まで、話を補ったり言い換えたりしている。
②根拠をはっきりさせて話している。
③話し合いの筋道を理解して話している。
④自分の立場をはっきりさせて話している。

◆書くこと
①相手の話を最後まで聞いている。
②自分の意見と比べて質問したり、賛同したりしている。

◆参加態度
①話し合いを成功させようとする態度で参加している。
②相手を尊重して話し合っている。

生徒が記入した「ミラクルシート」の別の一例。左側に課題設定と振り返りの欄があり、右側に自己評価と相互評価の欄がある。中央には「毎時間振り返る」という注釈がある。

評価の観点	自己評価
①	A
②	A
③	A
④	A
⑤	A
⑥	A
⑦	A
⑧	A
⑨	A
⑩	A
⑪	A
⑫	A
⑬	A
⑭	A
⑮	A
⑯	A
⑰	A
⑱	A
⑲	A
⑳	A
㉑	A
㉒	A
㉓	A
㉔	A
㉕	A
㉖	A
㉗	A
㉘	A
㉙	A
㉚	A
㉛	A
㉜	A
㉝	A
㉞	A
㉟	A
㊱	A
㊲	A
㊳	A
㊴	A
㊵	A
㊶	A
㊷	A
㊸	A
㊹	A
㊺	A
㊻	A
㊼	A
㊽	A
㊾	A
㊿	A

成果

- ☆ミラクルシートの継続使用により、自己の課題となる言語能力について、より今の自分に合った課題を検討する姿が見られた。
- ☆変容の分かる活動を機能させるためには、自己評価だけでなく、相互評価をすることが有効であることが分かった。

課題

- ☆変容のつかみにくい「読むこと」はどのように変容を自覚させていくか。
- ☆生徒の行う相互評価に妥当性や信頼性が乏しい。評価者として生徒に責任を持たせていくにはどうすればよいか。